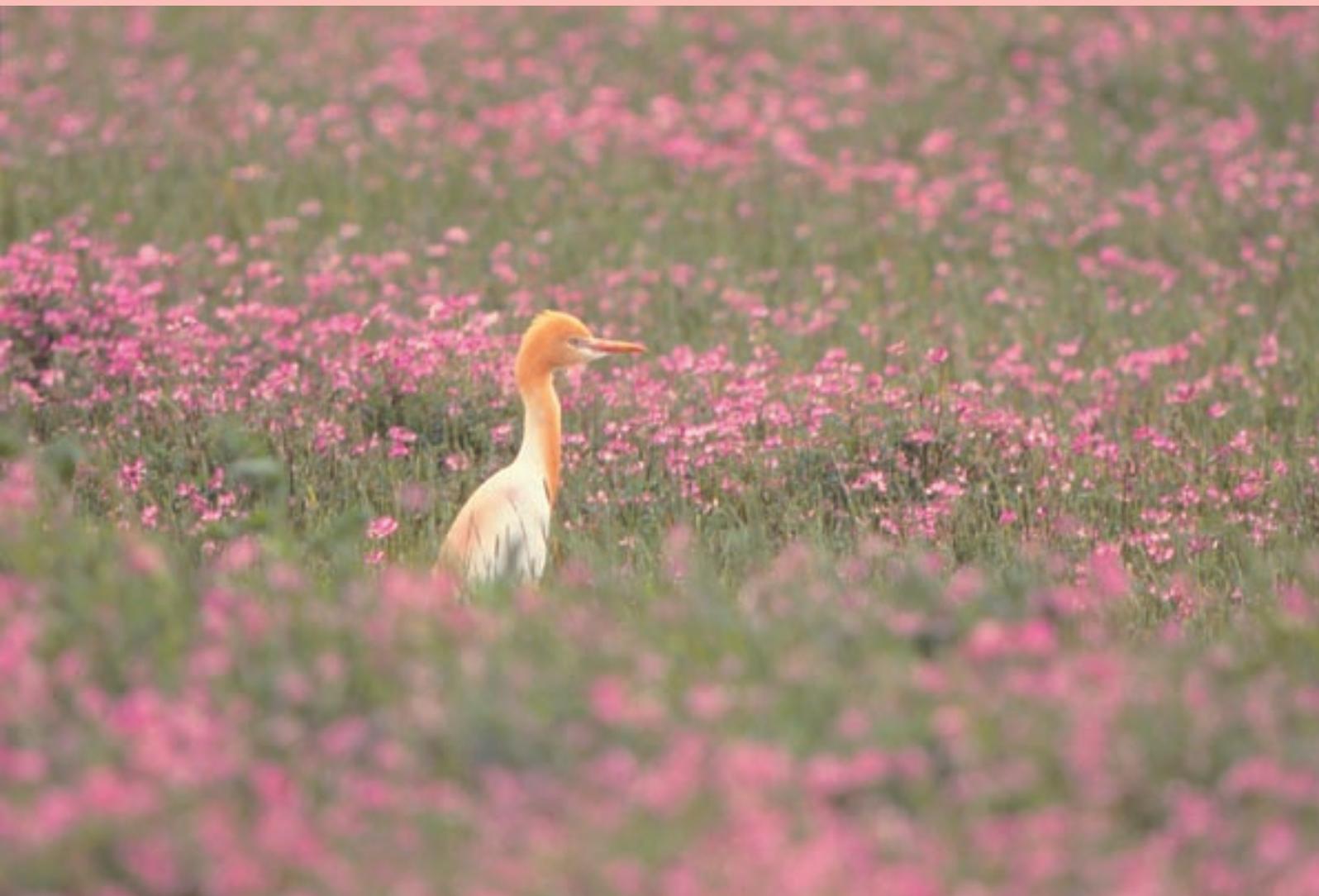


きょうさいだより

Sasebo Kyosai Hospital Communication Paper



「春の訪れ」撮影：かまち歯科医院 蒲地 正哉 先生

INDEX

- ごあいさつ..... ①
院長 木寺 義郎
- 中国瀋陽市から整形外科医が研修訪問
- 院外処方せん発行のお知らせ ②
- 診療活動の現況 ―整形外科 30年を振り返って― ③
- 拡大内視鏡について ⑤
- 認定看護師活動の紹介
- 地域医療連携室より ⑥
- 趣味を語るコーナー ●編集後記
- 外来診療担当表 ⑦

佐世保共済病院の理念

博愛の精神 人の和 自己研鑽

基本方針

1. 地域のニーズに応え信頼される医療を目指し、地域医療に貢献します。
2. 他の診療機関とともに地域の皆さんの診療と健康増進に努めます。
3. 新しい医学および医療の知識と情報を取り入れ、自己啓発に努めます。
4. それぞれが自己の責任を自覚し、安全な医療を目指します。
5. 病める人の苦しみや喜びを分かち合える心を持ち、患者さん中心の診療に努めます。

ごあいさつ

院長 木寺 義郎



医療関係者の間では周知されている事柄ですが、医療機関を対象として鈦工業品におけるJISに該当するような認証制度があります。公益財団法人「病院機能評価機構」が認定するもので、患者さん中心の標準的な医療を提供する体制が整えられているか、その体制が十分に機能しているかを機構という第三者の目を通して評価してもらい、自院の改善に役立てようというものです。従って受審は医療機関の自主性によりますが、ほとんどの中核的病院では認証を受けており、当院も2月12日、13日の両日に亘って審査を受けました。

実は5年前にVersion 6という評価基準で初めて受審しており、今回は更新ということになります。評価項目は多岐に亘り病院の理念、方針を浸透させて患者さん中心の医療を推進するための実効性のある体制が取られているか、職員の職場環境の改善や教育を推進するための取り組みが行われているかなどが評価されます。もちろん医療の実践に関することが中心になりますので、良質で標準的な医療が行われているかについては、例えば診療に関するガイドラインの活用度、複数の診療科やコメディカルが参加する合同カンファレンスの開催状況などが質されます。また院内感染防止対策のように、職域や職種を超えて取り組まなければならない課題も多くあります。5年前の初回の受審時には萩原博嗣副院長に準備委員長になってもらいましたが、職員の意識も高揚し高い得点を獲得して認定されるという結果になりました。

萩原先生は今年度で退任されますので、今回は山田潤診療部長に委員長になってもらいました。萩原先生には診療の面では来年度からも従来とほぼ同様に活動して頂く予定です。今回の審査でも前回同様に良い結果で更新できることを両先生と共に願っているところです。

中国瀋陽市から整形外科医が研修訪問

副院長 萩原 博嗣



左から2番目が朝長市長 中央が金成輝先生

当院整形外科に昨年11月6日からの1ヶ月間中国から整形外科研修生がやって来ました。

佐世保市は中国の瀋陽市（旧奉天市）と「友好交流都市」の協定を結んでおり、瀋陽市から医師の研修受け入れの依頼があったことに応じて、このほど当院整形外科が受け入れを実現することになりました。

やって来たのは瀋陽市骨科医院（日本では整形外科病院にあたり、整形外科医師だけで50人以上の大病院）に勤務する若き整形外科医師 金成輝先生（32歳）です。

中国では関節鏡視下の前十字靭帯再建術を専門的に勉強しているようですが、当科では人工関節置換術、肩関節の鏡視下手術、骨折をはじめとする外傷などを中心に1ヶ月間たっぷり手術室での研修を行っていただきました。仕事の後には同年輩の当科の医師たちと夜の佐世保の街に繰り出したり、休日には大型ショッピングセンターでの買い物を楽しんだようです。短い期間でしたが、両国整形外科の違いや我が国の先進的な治療について学んだことは大きかったというご本人の感想でした。この機会が日中友好のささやかな一助になればと願っています。



院外処方せんファックスコーナー

当院では平成 27 年 4 月 1 日（水）から、「医薬分業」の推進を図るため、原則としてすべての外来患者さんを対象に「院外処方せん」を発行することになりました。会計の際にお渡しする「処方せん」を、ご自分の都合の良い保険薬局（かかりつけ薬局）に提出してお薬を受け取って下さい。

【保険薬局の選択】

保険薬局は自由に選ぶことができます。あなたの好きな薬局を「かかりつけ薬局」にしましょう。「かかりつけ薬局」を決めておくと次のような良い点があります。

1. あなたの「薬歴（お薬の服用の記録）」を作り管理します。
2. お薬に対するアレルギー、副作用等を確認・記録することにより安全性を高めることができます。
3. 「お薬手帳」を作成し、これを活用して、相互作用（お薬の飲み合わせ）や重複投与がないかを確認します。
4. お薬の飲み方や注意する点をはじめ、体調や健康のことなど何でも相談することができます。

【お薬の受け取り方】

「院外処方せん」によるお薬の受け取り方法は二通りがあります。

1. かかりつけ薬局に「処方せん」を持参して受け取る。
2. 事前に処方内容を当院薬局横に設置されたファックス（写真）で送信し、「処方せん」と引き換えに受け取る。

【院外処方の流れ】

1. 診察が終了後、今まで通り書類ファイルを「会計窓口」にお出し下さい。
2. 計算が終わりましたら会計窓口でお呼びしますので、会計番号表と「処方せん」を受け取り、名前をご確認下さい。
3. かかりつけ薬局に「処方せん」を渡し、飲み方等の説明を聞きお薬を受け取って下さい。

院外処方への移行を契機に、当院薬剤師は入院患者さんのお薬全般に関わって、これまで以上に安全で質の高い医療に力を注いでいく所存です。移行当初はご不便をおかけするとは存じますがご理解とご協力をお願いいたします。

【はじめに】

整形外科 副院長
萩原 博嗣

整形外科診療の内容は近年めまぐるしく変化しつつあります。私は昭和61年に当院に赴任し、65歳になる今年度末に定年退職することになりましたので、これを機会に30年間の整形外科診療の変遷を振り返ってみたいと思います。

【人口高齢化に伴う変化】

昭和61年の日本の平均寿命は男性74歳、女性79歳でした。それが27年後の平成25年には男性80.2歳、女性86.6歳と男性で約6歳、女性では7歳も寿命が延びています。これに伴って骨折や関節疾患の中で高齢者が占める割合が高くなっています。寿命が延びることは結構なことですが、日常生活に支障のない期間（健康寿命）を延ばすことこそが大切ですので、整形外科が果たすべき役割も一層大きくなっていると感じています。

一方、交通安全対策の進歩や産業現場の整備にともなって、かつてのような重度の交通外傷や手指のプレス事故などの産業災害は減ってきています。また乳児の先天性股関節脱臼、先天性内反足の発生も大きく減りました。



昭和64年の整形外科医師（左から2番目が萩原副院長）

【骨粗鬆症への挑戦】

人口高齢化に伴う最も大きな影響は骨粗鬆症がらみの骨折が増えたことです。平成22年の報告では40歳以上で腰椎か大腿骨いずれかで骨粗鬆症と診断された患者数は1280万人（男性300万人、女性980万人）に達しています。高齢者の代表的な骨折は、大腿骨近位骨折（股の付け根）、上腕骨頸部骨折、脊椎圧迫骨折の3つですが、中でも最も命にかかわりやすい大腿骨近位部骨折の日本全国の発生数は昭和63年の5万3千件から平成24年には17万6千件（男女比は2.2対7.8）と、この25年で3.3倍に増えています。

80歳以上でも有病者は半分程度ですので、骨粗鬆症はただ年のせいというわけではなく骨代謝疾患と考えなければなりません。骨粗鬆症には予防（食事と運動）が大切ですが、既に骨密度が低下している場合にはビスホスホネートなどの薬剤投与で骨折の発生を半分まで減らすことができるというデータが出ています。まずは骨密度検査を受けましょう。骨折しないためには、転倒を予防すること（足腰のトレーニング）、強い骨を作ること（骨粗鬆症の予防と治療）、下肢の関節疾患（変形性膝関節症など）の治療が大切です。

【整形外科治療の進歩】

高齢者の増加に対応する必要性もあって整形外科の医療技術や手術法は大変進歩しています。新しい内固定器具や人工関節が次々に開発され淘汰されている結果、年々優れた手術成績が得られるようになってきました。進歩の代表的な例をお示しします。

- 大腿骨近位部骨折に対する手術の進歩。スイスやアメリカで開発されたガンマネイル法が日本人の体格にあうよう改良され、最も一般的な手術法になっています。侵襲が

小さく固定力に優れているので高齢者にも低リスクで手術ができるようになりました(図1)。その外の固定材料や人工骨頭なども大変使いやすくなっています。



- 人工関節置換術の進歩。人工股関節置換術は40年ほど前から我が国でも一般におこなわれるようになりましたが、かつては耐用年数が15年程度と考えられていました。その後金属や合成樹脂などの材料工学、手術方法、麻酔法や合併症対策などが年々進歩し現在では30年に及ぶ耐久性が実現しています。膝関節でも全く同様です。膝や股関節の進行した変形性関節症で悩む方には、60歳前後であっても人工関節の手術をお勧めできる時代になっています。
- 関節鏡視下手術。膝関節や肩関節では多くの手術が関節鏡視下に1～数cm程度の小さな切開で行えるようになってきました。当科で盛んに行っている肩腱板断裂や習慣性脱臼などの手術はほとんどが関節鏡視下手術で、痛みも少なく入院期間も短いので大変喜ばれています。

【当科の診療体制の充実】

昭和61年の整形外科の手術数は年間312件でしたが、平成26年には800件でした。(表)整形外科医師も当初の3名から徐々に増員して現在は8名になっています。忙しい仕事が

続いていることに変わりはありませんが、平成5年に病院新築工事に伴って手術室が新しくなり、無菌手術室が整備されたことによって人工関節手術をはじめとする先進的な医療を安心して行えるようになりました。また麻酔科、ICU(集中治療室)のスタッフの皆さんや他科の医師達に支えられているお陰で、高齢者や合併症のある厳しい条件の患者さんにも手術ができることは有難いことです。



【終わりに】

足掛け30年にわたって佐世保共済病院に何とか大過なく勤務することができました。御世話になりました多くの患者さんや、連携を頂いている地域の医療機関の皆様、当院の同僚たちに篤くお礼を申し上げます。4月以降、当分の間は非常勤医師として契約を頂きましたので、外来診療はこれまでと変わりなく続ける予定です。今後も何卒よろしく願い申し上げます。



現在の整形外科医師(後列中央が萩原副院長)



家庭用のカメラはこの30年でフィルムからデジタル化され、電子カメラとなり、画質は著しく向上して望遠機能や様々な画像処理機能が装着されています。我々が扱う内視鏡もこの30年でカメラ、ファイバースコープ、電子内視鏡と格段の進歩をとげてきました。現在の電子内視鏡はハイビジョンシステムになって画質が著しく向上していますが、その最先端にある「拡大電子内視鏡」は90倍の拡大機能と特殊光を用いた画像処理機能が付加されています。拡大電子内視鏡を用いることで病変の表面構造や血管の観察が可能となり、癌の診断が容易になりました。

食道、胃、大腸など消化管の癌は早期に発見できれば内視鏡治療で完治することが可能です。50代になったら一度、内視鏡検査を受けることをお勧めします。例えば下に御示しする微小なIIc型早期大腸癌の症例では、通常観察では癌と診断できませんが、拡大観察すると癌と診断することができます。

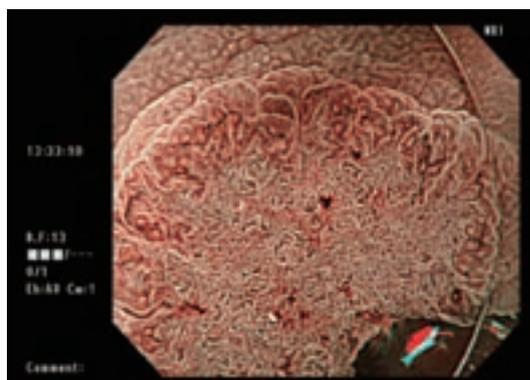


図1 通常内視鏡観察像

：中心部がやや陥凹した平坦病変を認めるが診断は確定できない。



図2 NBI併用拡大観察像

：不規則な異常血管網の増生を認め癌と診断された。

認定看護師活動の紹介

手術看護認定看護師 川寄 文義



「手術看護認定看護師」とは、手術を受ける患者さんが入院時から手術中、その後退院に到るまでの周手術期とよばれるすべての期間にわたって、安全かつ確実な医療を受けられるようにするために手術チームの調整を行う看護師のことです。手術看護では手術中だけではなく、各々の患者さんの身体的・精神的・社会的な背景を理解し、最良の手術が受けられるようチーム力を発揮させる必要があります。通常の手術室看護師として器械出し、外回り看護などの業務を行うほか、チームへの情報、知識のアップデートを行うために研修会の実施や手術看護認定看護師会議、学会への出席につとめています。

患者さんが佐世保共済病院で手術を受けてよかったと思っただけのようソフト・ハード両面での手術室の充実を図っていくことが急務であると考えています。手術室はまだまだ閉鎖された空間としての印象が強く、手術を受けるときの不安を完全に払拭するのは難しいことではありますが、少しでも安心して手術を受けることができるよう環境づくりに努めていきたいと考えています。

地域医療
連携室より
Part.
27

三原整形外科医院

〒857-1165 長崎県佐世保市大和町407-2

TEL 0956-31-7296

院長 三原 圭司 先生



こんにちは。三原整形外科の三原圭司と申します。私は昭和 36 年に生まれて以来高校まで佐世保で育ちました。福岡大学を卒業し、長崎大学整形外科に入局して関連病院で研鑽し、平成 13 年から父とともに働き始めました。

当院は現在スタッフ 13 名で、外来とりハビリテーションを中心の診療を行っています。患者さんの痛みの原因については、できるだけ納得していただけるような説明を心がけ、少しでも良くなって帰って頂けるように努めています。最近は患者さんの高齢化が進んでおり、70 歳はまだ若い方で、80 歳、90 歳の方が多数お見えになります。高齢の患者さんが転倒されますと手首や肩、大腿骨頸部、脊椎などの骨折を起こします。上肢の場合にはギプス等の保存的治療で対応できることもありますが、大腿骨頸部骨折などは手術が必要です。また近くには造船所や機械工場が多いため、労災事故の患者さんも来られます。この様な手術や入院が必要な患者さんを紹介する際には、萩原先生をはじめ共済病院整形外科の先生方には快く受け入れていただき、大変感謝しております。また野々下先生には MRI 検査等で、腹部外傷や婦人科疾患等では外科や婦人科の先生方にも大変お世話になっております。



スタッフの皆さん前列中央が三原先生

佐世保市内のベットを備えた有床診療所の数は、整形外科だけでなく内科や外科でも減少しています。手術後や慢性期の患者さんの逆紹介に当たっては、先生方だけでなく、地域連携室の方々も御苦労が多いことと推察いたします。通院が可能な患者さんには、ぜひ当院で継続した治療をさせて頂きたいと思っています。これからも宜しくお願い申し上げます。

趣味を語るコーナー

かまち歯科医院 蒲地 正哉 先生



昭和 59 年に戸尾町で歯科を開業しました。何か仕事以外に気分転換できることをしようと思い、日本野鳥の会の前身である佐世保野鳥の会に入会して、それから野鳥写真を撮ってきました。諫早干拓や対馬、雲仙、久住、遠くは北海道の鶴居村(タンチョウ)など、休日にはほとんど写真を撮って回りました。野鳥写真を撮るには、まず、その鳥の生態を十分に知ることから始めなくてはなりません。何事も同じだと思いますが、知識と経験が必要です。おかげで野鳥の事も少しはわかるようになりました。

先日は西彼の大角力島に磯釣りにでかけました。ミサゴとハヤブサが上空で鳴き交わしながら、互いに牽制していました。多分なわばりを争っていたのだと思います。

海でも山でも出かけてみれば、色んな発見や感動に出会えます。自然の中に身を置くことは、わたしの趣味でありリフレッシュ法です。(蒲地先生には今年度のきょうさいだより表紙写真を御提供頂く予定です)

編集後記

今、日本 3 大急潮である西海橋のうず潮が見頃ですが皆さんはここに遊園地があったのを覚えてますか。私は '70 年生まれですが、小学生の頃遊びに行きジェットコースターやイルカショーを楽しんだのを記憶してます。('88 年に閉園し、現在はコロナソホテルとなっています)

編集委員 栄喜 貴穂



佐世保共済病院 外来診療担当表

平成27年4月1日現在

科	役職	医師名	月		火		水		木		金		備考(専門分野・特徴など)
			午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
腎臓内科	部長	福成 健一	●						●				腎臓疾患・人工腎臓
	医長	金谷 晶子			●		●						腎臓疾患
	医員	野中 康徳	●					●					腎臓疾患
	〃	内海 沙織					●				●		腎臓疾患
循環器内科	部長	金谷 誠司					●		●				循環器疾患
	医員	片伯部幸子	●						●				循環器疾患
	非常勤医	田淵くみ子									●		循環器疾患
	〃	横山 晋二					●						循環器疾患
	〃	原口 剛									●		循環器疾患
	〃	西田 憲史	●		●								循環器疾患
呼吸器内科	非常勤医	水田 佑一					●						呼吸器疾患
	〃	藤内 研									●		呼吸器疾患
消化器内科	副院長	井口 東郎					●		●				胆管膵臓がん
	部長	河野 健次				●			●				肝臓疾患
	内視鏡センター長	宿輪 三郎	●				●				■		消化器内科疾患 ■は紹介患者のみの受付になります
	部長	丸山 祐二	●						●				消化器内科疾患・消化器がん
消化器センター					●						●		(診療内容) 上部・下部消化管、肝・胆・膵疾患の検査及び治療 富崎 井原
外科	診療部長	井原 司					●		●				消化器外科・肝胆膵臓外科・内視鏡下外科・一般外科
	部長	原田 洋				●					●		消化器外科・乳腺外科・一般外科
	〃	富崎 真一	●				●						消化器外科・内視鏡下外科・一般外科
	医長	三笠 圭太	●								●		血管外科・一般外科
	〃	佐藤 寿洋				●					●		消化器外科・一般外科
	医員	南 泰山	●						●				一般外科
	〃	中根 浩幸						●			●		一般外科
	非常勤医	川畑 方博						●					肝胆膵臓外科・消化器外科・一般外科
〃	武田 雄二							●				呼吸器外科 11時までに受付を行って下さい	
乳腺外来			●		●		●		●		●		※乳癌検診は、10時までに受付を行って下さい(要予約) 佐藤 中根 原田 原田 南
小児科	診療部長	岡 尚記	●		●		●		●		●		小児一般、小児アレルギー疾患、気管支喘息
	部長	合田 裕治	●		●		●		●		●		小児一般、小児アレルギー疾患、食物アレルギー、気管支喘息
	乳児健診					●							火曜 午後1時から診察開始 午後2時までに受付を行って下さい
	慢性外来							●					水曜 午後2時から診察開始
喘息外来									●			木曜 午後2時から診察開始	
脳神経外科	医長	尾藤 昭次	●		●		●		●		●		脳神経外科一般・脳腫瘍
整形外科	院長補佐	萩原 博嗣	●								●		膝・股関節疾患、人工関節置換術、骨折、スポーツ障害、小児整形外科
	部長	水城 安尋			●		●				●		上肢の外科(肩肘手)、足部外科(外反母趾等)、スポーツ障害
	医員	佐々木 大	●				●		●				膝股関節疾患、スポーツ障害、骨軟部腫瘍
	〃	内村 大輝			●				●		●		上肢の外科(肩肘手)、スポーツ障害
	〃	上田 幸輝	●				●				●		整形外科一般
	〃	伊東 孝浩	●		●						●		整形外科一般
	〃	溝口 孝	●		●				●				整形外科一般
	〃	田中 宏毅			●		●		●				整形外科一般
泌尿器科	副院長	山田 潤	●				●				●		尿路結石、尿路生殖器腫瘍、排尿障害、尿路感染、男性不妊(江口)
	部長	江口 二郎	※		●				●		■		▲は第1週のみ10時30分からです ■は新患のみの受付になります
	〃	中村 貴生	※		●		●		▲				※の第2・4週(江口)第1・3・5週(中村)が診察を行います
産婦人科	院長	木寺 義郎	●								●		産科・周産期医療、不妊症・内分泌疾患
	部長	鶴地 伸宏	●		■		●		●		●		腹腔鏡下手術、更年期・婦人科疾患
	〃	木下秀一郎			●		●		■		●		●：婦人科診療日 ■：産科診療日
	〃	松隈 敬太							●				
	医員	友延 寛	●■		●				●		■		
〃	柿添 絵里	●					■			●			
眼科	医長	原 潤	●		●	※	●	※	●		●	※	白内障手術、緑内障手術、硝子体手術、眼瞼下垂手術 翼状片手術、レーザー光凝固術
	※：火・水・金曜の午後は術前検査と特殊再来(要連絡)												
耳鼻咽喉科	部長	田浦 政彦	●		●		●		●		●		頭頸部腫瘍、嚥下障害、耳・鼻・咽喉頭・頸部などの手術
	医長	加藤 明子	●		●		●		●		●		
放射線科	部長	野々下政昭	※検査・画像診断についてのお申し込み・お問合せは、外来までお電話下さい。										MRI、CT、RI、血管造影、超音波検査
	医員	溝口 圭輔											
麻酔科	部長	深野 拓			●				●				月～金午前ペイン・緩和ケア外来
	医長	木本 文子	●					●			●		月～金午後は手術麻酔
	医員	豊田 智美											
	〃	佐々木誉詩子											
非常勤医	別府 幸岐												
病理診断科	顧問	井関 充及											細胞診断・病理組織診断全般
歯科口腔外科	部長	窪田 泰孝	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	歯科口腔外科、インプラント、顎顔面外傷、顎関節症、口腔腫瘍
	医員	藤永 貴大	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	菌性感染症など
健診センター	部長	佐藤 浩信	※お申し込み・お問い合わせは、健診センターまでお電話下さい。健診センター直通電話 0956-22-6155										
	医長	原 敬一											